



You will have more choices

地域連携情報誌

vol.45
2023年11月

いのちの誕生から生涯にわたって地域住民の
健康を支え、頼られる病院であり続けます



麻酔科主任科部長

(兼) 手術部中央手術室長

(兼) 心臓血管センター中央手術室長

(兼) 集中治療部副部長

く じ め よ り こ
久次米依子

平素より加古川中央市民病院の診療にご協力いただき、厚くお礼を申し上げます。

当院は、地域周産期母子医療センターとして東播地域の産科医療の中核を担ってきました。産婦人科、小児科、麻酔科が協力して産科的救急症例や早期産、ハイリスク妊婦さんへの対応をしております。日本では、「産みの苦しみ」という言葉にあるように、陣痛の痛みを乗り越えてこそのお産と考えられてきました。一方欧米では痛みに対しての考え方が違っており、陣痛も痛みとして医療の対象で、無痛分娩が広く行われています。陣痛を乗り越えた達成感や誇りは母親としての自信につながる一方で、実際にはつらかった痛みを人に打ち明けることもできず、悲しい気持ちを長く抱える母親もいます。また長く続いた痛みのために体力を消耗し、自宅に帰っても思うように動けない方もいます。近年では陣痛に対する考え方も変わってきて、痛いのは怖い！痛くない方がいいに決まっている、と本音を隠さない妊婦さんは増えています。また、妊婦さんの高齢化により30代後半の初産婦はごく普通で、やはり分娩にかかる時間は長くなります。20代の妊婦さんとは体力の消耗ぶりも、回復の遅さも違ってきます。以前のように、産後は実家に帰り両親を頼ってゆっくり過ごそうにも、両親は現役で働いていたり高齢祖父母の介護をしていたりで、十分なサポートを受けることが困難な場合もあります。厚労省の調査でも、無痛分娩の割合は6.1%（2016年）から8.6%（2020年）へ増加し、無痛分娩を実施する分娩取扱施設数は全体の26%（JALA無痛分娩関連情報より）に及びます。急変時には産婦人科、小児科、麻酔科が総力をあげて対応し、診療支援部門が充実した当院で無痛分娩を行う意義は大きいと考えています。

無痛分娩を求める声は高まっています。分娩に医療が介入するのが当然ということではなく、ニーズに応えたいと無痛分娩を開始しました。当院での無痛分娩について紹介いたします。



副院長(兼)産婦人科 主任科部長

房 正規

周産期センターである当院では、麻酔科医、産科医、小児科医、助産師が綿密に連携し、安全な無痛分娩を勧めて参ります。ご希望の方がおられましたら、ぜひご相談ください。

麻酔科 主任科部長

久次米 依子

分娩室で、産科の先生や助産師の、優しく凛々しく粘り強いことにびっくりしています。私もこのスタッフと分娩したかった(遠い昔ですが)。無痛分娩を希望される方にはぜひご紹介ください。

周産母子センター センター長
(兼)産婦人科 科部長

太田 岳人

無痛分娩だからといって、全ておまかせではいけません。そこに至る経過が大切です。外来診察を通して、医師・助産師がお手伝いします。共に良きゴールを目指しましょう。

麻酔科 医長

篠崎 裕美

「無痛分娩に興味はあるけど不安もある・・・」という妊婦さんはたくさんいらっしゃると思います。加古川で出産される皆様の選択肢の一つとして選んでいただけるよう、精一杯努めます。

産婦人科 科部長

宮本 岳雄

条件を満たした方のみが無痛分娩の対象となりますが、各部署と連携してお母さんにも赤ちゃんにも優しいお産を目指していきたいと考えています。

産婦人科病棟・産科外来師長からのコメント

当院は、地域周産期母子医療センターとして正常分娩だけでなく、多くのハイリスク妊産褥婦を受け入れています。しかし、様々なリスクにより帝王切開術を選択せざるを得ない場合があります。助産師としてジレンマを感じていました。そこで、妊婦さんの心身への負担を軽減し、多様な背景やニーズに応えられる分娩体制を整える必要があると考え、産婦人科医師や小児科医師、麻酔科医師との連携体制を整備し、2023年度より無痛分娩を開始することになりました。

私たち助産師は、妊婦さんがリラックスして前向きに出産に臨むことができ、同時に、ご家族の思いにも寄り添い、満足していただける出産となるようにサポートします。また、産後は身体の早期回復が期待できますので、母子同室や母乳育児の確立に向けてこれからも取り組んでまいります。よろしくお願い致します。



産婦人科病棟・産科外来師長

無痛分娩について

脊髄くも膜下麻酔併用硬膜外麻酔で行います。麻酔については、麻酔科医が主に担当管理します。安全に管理できるマンパワーの配置を考慮し、平日の日中に限定しています。原則として計画誘発分娩としますが、自然陣痛が発来した場合でもできる範囲で対応します。LDRで麻酔科医が麻酔を開始し、そのままLDRで経過していただきます。何らかの理由で帝王切開が必要になった場合は手術室に移動しますが、その際も引き続き麻酔科医が麻酔を担当します。

硬膜外麻酔はエイミーポンプという器械を使います。プログラムに応じて局所麻酔剤を投与するだけでなく、妊婦さんが希望する時には自分の判断でボタンを押して追加投与が可能です。

将来的には、合併症のある妊婦さんに適切な分娩様式として無痛分娩を提供できるよう準備を進めていきますが、当面は健康で妊娠経過がおおむね順調な方を対象に限定して行いたいと思います。



無痛分娩実施までの流れ

原則計画誘発分娩ですので、妊婦健診で子宮頸管の熟化を見ながら日程を組みます。誘発当日または前日に入院していただき、診察や血液検査で問題なければ誘発を開始します。硬膜外カテーテル留置のタイミングは、初産・経産の違いや過去の分娩経過を参考にお一人ずつ決定します。鎮痛開始後は器械で薬剤の定時投与を行います。担当麻酔科医が定期的に回診して鎮痛状態の確認や調節をしながら、分娩終了まで麻酔科医が鎮痛管理を行います。



当院での無痛分娩の実際

1



当院では、無痛分娩対象基準を設けています。希望者は、診察の際に医師に伝えていただきます。その後、無痛分娩に関するパンフレットを外来でお渡しします。家族と相談していただき、妊娠経過をみて最終判断は妊娠後期で行います。

2

助産師による保健指導で、安全に出産を迎えられるよう、妊娠中から心と体の準備をしていきます。助産師が責任を持って、初期・中期・後期の保健指導を行います。当院は「赤ちゃんにやさしい病院」なので、母乳も大切に指導をしています。



3



妊娠32週頃に麻酔科医による診察があり、無痛分娩の可否が決定します。無痛分娩は夫の同意も必要です。内診所見をみて誘発分娩の予定が入ります。その日まで、分娩が順調に進むように運動したりして、体調を整えます。立ちあい分娩を希望される場合は、ご家族の体調も整えていただき、みんなで出産にむけて準備をしていただきます。

4

痛みを感じ始めた頃や内診所見に応じて、麻酔科医により麻酔が導入されます。助産師が力を発揮する場面です。分娩がスムーズに進むように、産婦とともに力を合わせていきます。マッサージやアロマ、足浴などできることを積極的に行っています。



無痛分娩は和痛であり、完全に痛みがなくなるわけではありません。しかし、無痛分娩を経験された方から、90%の満足度を得られています。また、母乳分泌も良く母乳栄養で退院されています。当院では、無痛分娩をされた方へ出産後にアンケートを実施させていただいております。その中で、以下のようないきみ逃しの辛さがなく、とっても楽でした。」「内診や会陰処置が痛くなかった！」無痛分娩により、分娩時の体力消耗を最小限にし、満足のいく分娩経験を経て育児をスムーズにスタートさせられるよう、産婦人科医師、麻酔科医師、小児科医師、助産師が協働しています。そして、より満足していただける出産となるよう、安全・安楽なケアを今後も目指していきます。

連携医紹介

当院と連携いただいている医療機関をご紹介します。

中田医院

診療科：内科／糖尿病内科／消化器内科／脳神経内科／訪問診療

中田医院は東加古川の地で開業し、地域医療に従事してまいりました。開業60年の節目となる今年度は、より明るく清潔感のある快適な空間で地域の皆様に医療を提供できるよう、施設の全面リニューアルを行いました。

当院は、風邪、高血圧や糖尿病といった生活習慣病など、一般的な内科疾患に幅広く対応しております。また、専門外来として脳神経内科、もの忘れ外来（予約制）を行っております。また、救急医として新型コロナウイルスに向き合ってきた経験を踏まえて、陰圧室も完備しており、新興感染症にも対応できるような体制を敷いています。

さらに、私自身が加古川中央市民病院の救急科スタッフとして勤務させていただいていたご縁もあり、同院へのご紹介、搬送をはじめ近隣の医療機関との連携も密にしております。

様々な事情で通院が困難な患者様を対象とした訪問診療や、ご自宅で最期を迎えたいという患者様のお看取りなど、在宅医療にも力を入れております。様々なニーズに応え、地域の皆様に寄り添ったかかりつけ医を目指しておりますので、お困りごとはお気軽にご相談ください。

所在地：加古川市平岡町新在家 3 丁目286-5

駐車場台数：17台

TEL.079-422-3720



院長 中田 一弥 先生



診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前 9:00～12:00	○	○	○	○	○	○	—
午後 16:00～18:00	○	—	○	—	○	—	—
脳神経内科(予約制) 午前 9:00～12:00	○	—	—	—	○	第2・4	—
物忘れ外来(予約制) 午前 9:00～12:00	—	○	—	○	—	第1・3・5	—

※休診日 日曜・祝日

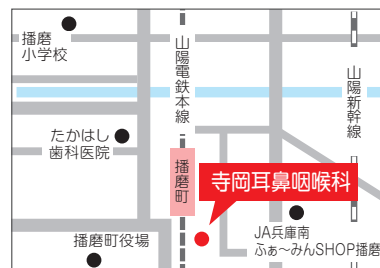
寺岡耳鼻咽喉科

診療科：耳鼻咽喉科

右の写真は、北海道在住の作家さんに当院のために作っていただいた銅人形です。三田市の人気洋菓子店エスコヤマのお庭にある銅人形の作者でもある方の作品で、森の妖精をモチーフにしており、痛い思いををするのではないかとご不安な患者さんを入口で出迎えてくれます。耳鼻咽喉科の範囲は主に鎖骨より上部の疾患です。まず患部を視診し、必要に応じて耳では聴力検査、平衡機能検査などを、鼻や咽喉では、副鼻腔レントゲンなど画像検査、内視鏡検査などを駆使して、「耳垢」、「耳掃除し過ぎの外耳炎」、「中耳炎」、「花粉症、鼻炎」、「副鼻腔炎」、「咽頭喉頭炎」、「耳性眩暈」などよくある疾患から、「突発性難聴」、「顔面神経麻痺」、「扁桃周囲膿瘍」、「頭頸部腫瘍」など、程度によっては直ぐに加古川中央市民病院へご紹介させて頂きたい疾患まで、適切な治療、早期診断および紹介を心掛けています。加古川中央市民病院の先生には大変お世話になっております。ありがとうございます。また、日常生活に支障をきたす難聴が疑われる場合、専門医(補聴器相談医)に相談の上、認定補聴器技能者が在籍する認定補聴器専門店での補聴器購入をお勧めしております。「耳鳴」にはサウンドジェネレーターなどの音響療法も有効です。補聴器外来も行っていますので、是非お気軽にご相談してください。



院長 寺岡 優 先生



診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前 9:00～12:00	○	○	—	○	○	※	—
午後 15:30～18:30	○	○	—	○	○	—	—

※休診日 日曜・祝日・水曜

※土曜日は9:00～13:00

所在地：加古郡播磨町南野添 3 丁目10-11

駐車場台数：17台

TEL.079-435-3376

在宅医療連携研修会開催のご報告

第2回在宅医療連携研修会を7月20日（木）に会場開催しました。認知症看護認定看護師の寺田美奈子さんから「認知症者の意思決定支援」というテーマでご講演をいただきました。研修会では認知症についての基礎知識、意思決定に係るフローチャートや事例を用いながら分かりやすくお話をいただき、普段から地域において認知症の方の支援対応をされている方へも、基礎に立ち返るための有意義な時間となりました。



第3回在宅医療連携研修を8月17日（木）に会場開催しました。今回の研修は、緩和ケアセンターのがん化学療法看護認定看護師の梶原絹代さんより「当院の緩和ケアの提供体制について」、緩和ケア認定看護師阪井美緒さんより「看取りのケア」についての講義に合わせてグループワーク「地域における緩和ケアの現状と課題、切れ目のない緩和ケア提供のための工夫」について意見交換を行いました。院外からは17名、院内からは9名の参加がありました。



梶原看護師からは、当院の緩和ケアの提供体制や緩和ケアセンターの具体的な取組み、現状の課題等についての講義、阪井看護師からは、看取りのケアの基礎知識、疾患別の特性、看取りに向けたケアについて具体例を示しながら講義をしていただきました。講義の間にグループワークを取り入れ、限られた時間ではありましたが、緩和ケアの理解につながり、今後の実践にも役立てることのできる研修会となりました。



研修参加者からは、「病院と地域との課題等が共有でき連携作りについて意見交換ができた」「多職種とディスカッションができて有意義な研修であった」などの意見から日頃の思いや体験談を交えながら地域の医療機関や在宅医療で抱える課題や今後双方でできること等について意見交換ができた貴重な機会となりました。



第3回2市2町心不全地域連携ネットワーク 意見交換会開催のご報告

第3回2市2町心不全地域連携ネットワーク意見交換会を10月5日（木）に開催しました。当院を含む地域の病院・クリニック計23施設の医師その他医療従事者に参加いただき活発な意見交換を行いました。心不全患者を地域全体で診るための課題やこれから行っていく取り組みについて様々なご意見があり大変有意義な会となりました。今後も継続して取り組みを行い地域連携ネットワークを構築していきたいと思っておりますのでご協力よろしくお願い致します。



地域連携室からのお知らせ

休み明けの病診予約につきまして

休み明けの病診予約に時間がかかっているのご意見を頂いております。休み明けにご依頼頂いた病診予約は、休日中にご依頼頂いた病診予約をすべて処理した後、着手しております。このことから、休み明けの病診予約（特に午前中にご依頼頂いた病診予約）にお時間がかかっております。大変ご迷惑をおかけいたしますが、何卒ご理解賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

婦人科の初診につきまして

婦人科の初診は「完全予約制」となっております。紹介状の有無に関わらず、予約なしの受診はお断りしております。必ず事前にご予約頂けますよう、ご理解とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

